

扶和メタル新中計の狙い

勝山 正明社長に聞く

扶和メタル（社長・勝山正明氏）は2017年を起点とする3カ年中期経営計画を前倒しで達成し、19年を起点とする新中計をスタートさせた。新中計の狙いなどについて勝山社長に話を聞いた。（宇尾野 宏之）

――まず前期（18年12月期）の総括から。増となった。輸出量は状況によって大きく上下するものであり、国内で数増となった。米国子会社の扶和メタルUSA減価償却費用が3億円程度を含めると取り扱い数量は80万トとなるが、トータルで86%の目標達成率だった。扱ひ量が減ったのは、輸出環境の悪化が要因。関東における扱ひが減少した。ただ、主に国内向け販売主体の関西

など前中計目標を1年で、3〜5カ所開設し、前倒しで達成できたこと

――新中計が始まりました。各支店の土台を固めた国内の新ヤードについて

「各支店の土台を固めた国内の新ヤードについて

鉄スクラップ扱ひ量

4割増の110万トンへ

関東圏で新ヤード

新事業で収益増も



など順調に関東での事業は順調に拡大している。これらに加え、西東京地域に拠点を開設できれば、関東を網羅できることになる。すでに2カ所の候補地があり、新ヤードはまずは月間1千トの扱ひ量を目標とし、2千トを前提として、新事業は3千トになれば、加工処理設備の導入を考えて

――雑品問題への取り組みは。「シュレッダーを保有する企業がすでに熱心に取り組んでおり、処理能力のある工場が全国で整備され始めている。雑品リサイクルもこれから進めるはずで、スクラップビジネスで大きな市場」と

売上高3億円で、営業利益ベースで1億円が見込める。本体のスクラップビジネスにもいい影響があるのではないかと期待している

――海外事業のさらなる拡大も目指しています。「共栄・シマブンコ

「ヤード買収の案件を進めていたが、今回は最終的に見送りとした。ただ、東南アジアなど海外に拠点を新たに増やすという方針は変えていない。アンテナを張って、拠点を探っていく」

――九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

「九州・中四国・中部に

